

震災から5年。今年も被災地にさくらの苗木を届けます

“ikka×さくら並木プロジェクト” 2016年の支援商品を発売
ikka オリジナル商品の販売を通じて 被災地のさくら植樹活動へ寄付します



株式会社コックス（本社：東京都中央区日本橋浜町1-2-1、代表取締役社長：吉竹英典、以下当社）は、基幹ブランド「ikka（イッカ）」より、東北復興支援活動「さくら並木プロジェクト」を支援する春のオリジナル商品を発売いたします。2016年2月22日（月）より順次、全国の「ikka」約140店舗と各WEBストアで販売します。当社は活動の趣旨に賛同し、2014年度より同プロジェクトに参加しています。支援商品のご購入によりこれまでに約15万円の寄付を行ない、計4本のさくらの苗木を東北に植えることができました。

津波の被害を風化させない 将来の津波で1人でも多くの命を守るために

「さくら並木プロジェクト」は、オーガニックコットンを通じた社会貢献プロジェクト「オーガビッツ (orgabits)」が支援する活動のひとつで、東北の津波到達地に桜を植樹する、NPO法人さくら並木ネットワークの取り組みです。

東日本大震災で多くの犠牲者を出した津波の被害を風化させないため、また将来起こりうる津波の際に避難の目標地点とするために、東北の各地にさくら並木を造成する活動です。今回は、メンズ・レディースの計2型、対象商品を発売します。商品には特製の下げ札を付け、1枚につき10円を同プロジェクトに寄付します。



支援商品概要

↓ **SAKURA リップルジャケット** **Men's**

価格 4,800円 + 税
カラー ライトグレー・ネイビー
サイズ M・L・LL
特長 オーガニックコットン10%使用。
使いやすいシンプルなジャケットは、軽やかな春の装いにピッタリ。プリントネームに桜のモチーフを入れ、活動への思いを伝えています。



↑ **SAKURA レース切替えプルオーバー** **Ladies**

価格 3,800円 + 税
カラー オフホワイト・グレー・ネイビー
サイズ M・L
特長 オーガニックコットン10%使用。
レース使いで女性らしく仕上げたプルオーバーは春のコーデの主役に。よく見ると切替えのレースが桜の花びらモチーフになっています。

ikka x さくら並木プロジェクトの取組み

東日本大震災の被災地復興支援の一環として、当社は**2014年度より、同プロジェクトに参加**しています。これまでも基幹ブランドのikkaよりオリジナル商品を発売し、ご購入金の一部で行なった寄付により、**宮城県仙台市若林区と石巻市へ計4本の桜の苗木を植樹**することができました。（下記写真参照）

2016年3月も、新たなさくらの苗木を植える植樹会への参加を予定しています。

<昨年の植樹会の様子> 2015年3月22日、宮城県石巻市北上にて行なわれた植樹会に参加しました。



■ ikka WEB ■

ブランドサイト：<http://www.cox-online.co.jp/brand/ikka/>

SHOP ブログ：<http://blog.ciqueto.com/brand/ikka>

MAGASEEK：www.magaseek.com/shop/top/sh_COXIIK-tp_1-tr_s

公式オンライン：<http://shop.ciqueto.com/p/ikka/app/common/index>

ZOZOTOWN：<http://zozo.jp/shop/ikkalounge/> (ikka LOUNGE 業態)

LEE マルシェ：http://flagshop.jp/lee/shop/r/r22317_y1_ns_o5_OFS/?aid=lmtpl_leftBrandSelect

<さくら並木プロジェクト>

さくら並木プロジェクトは、東日本大震災の津波の到達地に、桜を植樹する活動で、NPO法人さくら並木ネットワークが行なっています。植樹した桜が美しい並木となり、犠牲となった多くの方を鎮魂すること、未来まで津波の被害を風化させないこと、未来の津波発生時に避難の目標となって住民の命を守ること、そして将来多くの人が訪れる観光地になり、被災地の経済復興支援となることを願い、記憶に残るさくら並木の造成を目指しています。2014年より始まった、オーガビッツxさくら並木プロジェクトの取組みは、当社のブランド「ikka」をはじめ、様々なアパレルブランドが賛同・参加しています。

(<http://sakuranamiki.jpn.org/archives/4689.html>)



<オーガビッツプロジェクト>

日本で最も多くのアパレルブランドが参加するオーガニックコットン普及プロジェクト。オーガニックコットン 100%にこだわらず 10%の商品を 100 倍の人に届けるという「逆転の発想」で現在約 90 ブランドが参加し、年間約 90 万枚のアイテムを生産しています。その活動は原産国農家やNPO法人の支援へと拡大し、一枚の服を通してお洒落に参加出来る社会貢献活動としても輪が広がっています。



従来の栽培方法で生産されている綿花には、世界中で使用されている殺虫剤の約15%、農薬の約7%が使用(*出典:Textile Exchange)されており、土壌汚染、環境問題等様々な問題を内包しています。一方、オーガニックコットンとは、農薬や化学肥料を3年以上まったく使用していない農地で、有機栽培された綿花を指します。オーガニックコットンの需要が高まることで、従来の栽培方法による綿花栽培が減少し、上記の問題が改善されていくことが期待されます。

(<http://orgabits.com/>)